

**2024年度「台湾日本語教育研究」国際シンポジウム**  
**日本語教育の60年－台湾の日本語学科が達成したものと今後の課題－**  
**プログラム（案）**

2024/9/26

会場 淡江大学淡水キャンパス・驚声ビル3階（新北市淡水区英専路151号）  
 時間 2024年11月9日（土曜日）8:30 - 16:30

0810-0830	受付（驚声国際会議場前）	
0830-0850	<b>開会式</b>	会場 驚声国際会議場 開会挨拶 曾 秋桂（台湾日本語教育学会理事長） 林 怡弟（淡江大学外国語学部学部長） 村本 千晶（公益財団法人日本台湾交流協会台北事務所広報文化部長） 司 会 樋口 達郎（台湾日本語教育学会副事務局長）
0850-0900	記念撮影	
0900-0940	<b>基調講演 1</b>	会場 驚声国際会議場 司 会 王 世和（東呉大学教授兼副学長） テーマ 台湾の大学日本語教育の60年 —回顧と展望— 講演者 頼 錦雀（東呉大学特聘教授）
0940-0950	休憩時間	
0950-1030	<b>基調講演 2</b>	会場 驚声国際会議場 司 会 頼 振南（輔仁大学教授兼副学長） テーマ 平和創造のために日本語教育は何か —戦争の記憶×平和俳句交換がもたらすもの— 講演者 松永 典子（九州大学教授）
1030-1040	休憩時間	
1040-1120	<b>基調講演 3</b>	会場 驚声国際会議場 司 会 林 慧君（台湾大学教授） テーマ これからの日本語教育が目指すもの —AIとの共生を踏まえて— 講演者 宇佐美 まゆみ（東京外国語大学名誉教授）
1120-1130	休憩時間	
1130-1200	<b>招待講演 1</b>	会場 驚声国際会議場 司 会 董 莊敬（文藻外国語大学教授） テーマ 日本における海外からの留学生の現状と課題 講演者 八尋 春海（日本比較文化学会前会長）
1200-1300	1. 会員大会（驚声国際会議場） 2. 昼食時間（T311教室）	<b>ポスター発表</b> 会場 驚声ビル2階入ロロビー 座長 王 憶雲（台湾大学教授） 木下 りか（武庫川女子大学教授）・野田 大志（愛知学院大学教授） 詞彙的相位 —「雅語」「古風詞彙」—
1300-1305	<b>セッション 1</b> 会場 驚声国際会議場 司 会 黄 英哲（台中科技大学教授）	<b>セッション 2</b> 会場 T307教室 コメンテーター 羅 濟立（東呉大学教授兼学部長）
1305-1335	成 琬炯（韓国日本語教育学会副会長）*招待講演* 韓国大学における日本語教育の現状と課題	佐古 恵里香（流通科学大学特任専任講師）・山内 信幸（同志社大学教授） 異なるジャンルの読み物における日本語学習者のインタープロトタイプの語相 —言語の普遍性に着目して—
1335-1405	川口慶子（韓国日本語教育学会副会長）*招待発表* 日本語教育が目指すべきもの —韓国の大学における学習者の多様性から考える—	李 桂芳（輔仁大学助理教授） 異なる文章力の学生の日本語文章作成のメタ認知能力の発達特徴
1405-1410	休憩時間	
1410-1415	<b>セッション 3</b> 会場 驚声国際会議場 コメンテーター 范 淑文（台湾大学非常勤教授）	<b>セッション 4</b> 会場 T307教室 コメンテーター 羅 曉勤（台中科技大学教授）
1415-1445	王 佑心（銘傳大学准教授） 翻訳者コンピテンスの涵養を目的とする翻訳授業に対しての一考察	内山 喜代成（桜美林大学准教授）・王 怡人（東海大学助理教授） 工藤 節子（東海大学助理教授）・黄 淑燕（東海大学准教授） 台日大学間の授業連携における学習支援による学び —契約学習と日本語教員養成の事例から—
1445-1515	甘利 実乃（東京外国語大学博士後期課程） AIを活用したアイデアユニットによる文学的理解支援に関する研究 —『蜘蛛の糸』を事例として—	城戸 秀則（東呉大学非常勤助理教授） 「TVとこらだ」の指導をめぐる
1515-1520	休憩時間	
1520-1525	<b>セッション 5</b> 会場 驚声国際会議場 コメンテーター 黄 翠娥（輔仁大学教授）	<b>セッション 6</b> 会場 T307教室 コメンテーター 山内 信幸（同志社大学教授）
1525-1555	中澤 一光（元智大学准教授） CLIL と VR を用いた中級日本語の授業実践に対する学習者の認識の分析	孫 彤（東京外国語大学博士後期課程） 日本語会話教材にみる日本語会話教育観の変遷 —中級会話教材の特徴分析結果から—
1555-1625	王 睿琪（東京外国語大学非常勤講師） 視聴型聴解における理解過程構築の分析 —問題箇所範囲と聴解ストラテジーを中心に—	程 珮涵（東呉大学博士課程） 語の形態から日本語動詞を考察する —「～す」「～せる」形を中心に—
1625-1630	<b>閉会式</b>	会場 驚声国際会議場 閉会挨拶 曾 秋桂（台湾日本語教育学会理事長） 司 会 樋口 達郎（台湾日本語教育学会副事務局長）
1800-1930	<b>懇親会</b> 会場 將捷金鬱金香酒店（新北市淡水区中正路一段2-1號1F宴会厅）	

主催 台湾日本語教育学会・淡江大学村上春樹研究センター  
 助成 独立行政法人国際交流基金  
 後援 公益財団法人日本台湾交流協会台北事務所・日本比較文化学会・韓国日本語教育学会